

■  
■

令和5年度

大学院教育学研究科（教職大学院）

学生募集要項

東京学芸大学

令和5年度

大学院教育学研究科（教職大学院）

# 学生募集要項



東京学芸大学

令和4年5月

令和5年度 東京学芸大学大学院 教育学研究科（教職大学院）試験期日等日程

・一般選抜 ・現職教員選抜 ・派遣教員選抜 ・特別選抜 (以下「A日程」 という。)	入学願書受付期間	令和4年8月30日(火)～9月5日(月)
	試験期日	令和4年10月22日(土)・23日(日)
	合格発表	令和4年11月4日(金)
	入学手続日	令和4年11月22日(火)

入学資格審査申請期間 ※6頁参照	令和4年7月5日(火)～8日(金)
------------------	-------------------

・派遣教員選抜 (第2回) (以下「B日程」 という。)	入学願書受付期間	令和5年1月24日(火)～26日(木)
	試験期日	令和5年2月18日(土)
	合格発表	令和5年3月2日(木)
	入学手続日	令和5年3月13日(月) ※必着・郵送のみ

入学資格審査申請期間 ※6頁参照	令和5年1月6日(金)～10日(火)
------------------	--------------------

問い合わせ先

(注) 問い合わせ受付時間は、平日9時～12時、13時～17時です。

○「入学試験」について

学務部入試課 〒184-8501 東京都小金井市貫井北町4-1-1  
☎042-329-7203

○入試に関するお問い合わせフォーム

<https://forms.office.com/r/xU9hcPqRCD>

※試験当日などの緊急連絡には使用できません。



○「カリキュラム, 履修基準, 教員免許取得方法等」について

学務部大学院課 〒184-8501 東京都小金井市貫井北町4-1-1  
☎042-329-7707

## 目 次

○ 大学院教育学研究科（教職大学院）のアドミッション・ポリシー	2
1. 募集人員	3
2. 出願資格	4
3. 『2.出願資格の（1）の⑨』により出願しようとする者の資格認定について	6
4. 標準修業年限	6
5. 現職教員等に対する特例等	7
6. 教員免許取得のための特別なコース	7
7. 出願手続	8
8. 受験に際して配慮を必要とする者の事前相談	11
9. 選抜方法等（選抜基準）	12
○ 学力検査等の内容及び時間（一般選抜・現職教員選抜）	13
○ 学力検査等の内容及び時間（派遣教員選抜・特別選抜）	17
○ 音楽教育サブプログラムの学力検査等の内容及び時間 （一般選抜・現職教員選抜）	21
10. 合格者の発表	22
11. 欠員補充第2次募集	22
12. 入学手続	22
13. 諸経費	22
14. 留意事項	23
15. 入学試験情報	23
16. 個人情報の取扱いについて	23
17. 願書記入上の注意	24
○ 入学料及び授業料免除制度	28
○ 日本学生支援機構奨学金の予約採用制度	28
○ 本学へのアクセス・構内キャンパスマップ	28
□ 出願書類（本学所定の用紙）	

## ○アドミッション・ポリシー（入学者の受入の方針）

### 【教育学研究科（教職大学院）教育実践専門職高度化専攻】

教育学研究科（教職大学院）教育実践専門職高度化専攻は、教科等の指導や現代的な教育課題に対する取組において、教職員・保護者・地域の人々・専門家と協働して問題解決にあたることのできる高度な実践的指導力を備え、学校や地域の教育活動においてリーダーとなる教員（スクールリーダー）を養成することを目的とし、以下のような人々を求めている。

1. 教科等の専門的知識と基礎的な実践力、向上心を有する大学卒業予定者あるいは社会人で、高度な実践的指導力を備えたスクールリーダーを志す人
2. 学校における豊かな教育経験に裏付けられた専門的知識と実践力、現代的な教育課題に対して強い解決への意欲を有する現職教員で、高度な実践的指導力を備えたスクールリーダーを志す人

入学選抜においては、教職大学院において学ぶ上で必要とされる実践力等を有しているかを判断するために、小論文、専門試験、面接、出願書類により総合的に評価を行う。

## 1. 募集人員

専攻	入学定員	プログラム	サブプログラム	募集人員	
				A日程 ・一般選抜 ・現職教員選抜 ・派遣教員選抜 ・特別選抜	B日程 派遣教員選抜 (第2回)
教育実践専門職 高度化専攻	210名	学校組織マネジメント (注1)		205名	5名
		総合教育実践			
		教科領域指導	国語教育		
			社会科教育		
			数学教育		
			理科教育		
			音楽教育		
			美術・工芸教育		
			書道教育		
			保健体育教育		
			技術教育		
			家庭科教育		
			英語教育		
			情報教育		
			幼児教育		
		養護教育			
特別支援教育高度化					
教育プロジェクト	学校教育課題				
	国際理解・ 多文化共生教育				
	環境教育				
合計				205名	5名

- (1) 志願者は、志望するいずれか1つのプログラム・サブプログラムに限り出願することができます。
- (2) 入学者選抜は、一般選抜、現職教員選抜、派遣教員選抜、特別選抜のいずれかによります。
- (3) 特別選抜とは、「東京学芸大学教員養成高度化大学間連携コース」に登録し、スタートパスプログラムの指定された内容を修了した者、又は「東京学芸大学次世代学校リーダー養成コース」に登録し、内部選考に合格した者を対象に行う選抜です。

(注1) 学校組織マネジメントプログラムは、現在、教員として在職中の者（ただし、任期付き雇用の者又は入学後に退職予定の者を除く）のみ出願することができます。

## 2. 出願資格

基礎資格を有し、かつ、選抜区分ごとの出願要件を満たしている者

### (1) 基礎資格

次の①から⑨のいずれかに該当する者

- ① 日本の大学を卒業した者又は令和5年3月までに卒業見込みの者
- ② 学校教育法（昭和22年法律第26号）第104条第7項の規定により学士の学位を授与された者又は令和5年3月までに授与される見込みの者
- ③ 外国において、学校教育における16年の課程を修了した者又は令和5年3月までに修了見込みの者
- ④ 外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該外国の学校教育における16年の課程を修了した者又は令和5年3月までに修了見込みの者
- ⑤ 我が国において、外国の大学の課程（その修了者が当該外国の学校教育における16年の課程を修了したとされるものに限る。）を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了した者又は令和5年3月までに修了見込みの者
- ⑥ 外国の大学その他の外国の学校（その教育研究活動等の総合的な状況について、当該外国の政府又は関係機関の認証を受けた者による評価を受けたもの又はこれに準ずるものとして文部科学大臣が別に指定するものに限る。）において、修業年限が3年以上である課程を修了すること（当該外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該課程を修了すること及び当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって出願資格⑤の指定を受けたものにおいて課程を修了することを含む。）により、学士の学位に相当する学位を授与された者
- ⑦ 専修学校の専門課程（修業年限が4年以上であることその他の文部科学大臣が定める基準を満たすものに限る。）で文部科学大臣が別に指定するものを文部科学大臣が定める日以後に修了した者又は令和5年3月までに修了見込みの者
- ⑧ 文部科学大臣の指定した者（昭和28年文部省告示第5号参照）
- ⑨ 本学大学院教育学研究科において、個別の入学資格審査により、大学を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者で、令和5年3月31日までに22歳に達する者

(注) 上記の資格⑨で出願しようとする者は、事前に個別の入学資格審査を受けなければならないので、6頁の「3. 『2. 出願資格の(1)の⑨』により出願しようとする者の資格認定について」により申請書類を提出してください。

(注) 外国の大学等を卒業した者は、学士の学位を有していても、入学資格を満たしていない場合がありますので、事前に入試課へ問い合わせてください。

## (2) 選抜区分ごとの対象者及び出願要件

選抜区分	対象者	出願要件
一般選抜	大学新卒者， 社会人等 (下記に該当する者を除く)	次の①又は②に該当する者 ① 教育職員免許法第4条第2項に定める普通免許状(1種)を有する者又は令和5年3月までに取得見込みの者 ② 教育職員免許法第4条第2項に定める普通免許状(2種)を有する者であって、初等中等教育において10年以上の教職経験(注1)を有する者又はそれに準ずる社会経験を有すると認められる者(注2)
現職教員選抜	現職教員又は教育関係諸機関に在職している者	次の①及び②に該当する者 ① 在職のまま入学を希望する常勤の者(ただし、任期付き雇用の者又は入学後に退職予定の者を除く)で、次のア又はイのいずれかに該当する者(注3) ア 学校教育法第1条に規定する学校の教員 イ 教育公務員特例法第2条に規定する教育公務員 ② 教育職員免許法第4条第2項に定める普通免許状(1種)を有する者 又は教育職員免許法第4条第2項に定める普通免許状(2種)を有する者であって初等中等教育において10年以上の教職経験(注1)を有する者
派遣教員選抜		都道府県教育委員会・指定都市等教育委員会から大学院派遣研修として1年以上にわたり勤務を離れ研修を行うことの命令を受けた者又は承認を得て推薦された者又は東京学芸大学附属学校内地研修員として選出された者
特別選抜	東京学芸大学教員養成高度化大学間連携コース参加者 又は 東京学芸大学次世代学校リーダー養成コース参加者	東京学芸大学教員養成高度化大学間連携コースに登録し、スタートパスプログラムの指定された内容を修了した者 又は東京学芸大学次世代学校リーダー養成コースに登録し、内部選考に合格した者

(注1) 一般選抜，現職教員選抜の出願資格において，経験年数の算出は，入学時点(令和5年4月1日現在)において，勤務形態が常勤又は常勤の職員と同等である非常勤の職にあった期間を指す。なお，1か月未満の期間がある場合は1か月に切り上げて算出する。休職した期間がある場合にはその期間を除く。

(注2) 一般選抜の出願資格において，初等中等教育における10年以上の教職経験に準ずる社会経験を有すると認められる者とは，教職大学院で学ぶ上で基礎となる10年以上の実務経験を有すると本学が認める者(例 保育士，看護師，保健師，助産師)を指す。

(注3) 現職教員には，大学院修学休業制度等により休業中(予定)の者を含む。

### 3. 『2. 出願資格の(1)の⑨』により出願しようとする者の資格認定について

本学大学院教育学研究科への入学資格審査を申請する者は、事前に入試課へ問い合わせ（連絡先は表紙裏面）の上、下記の書類①～⑥を一括して、申請期間中に東京学芸大学入試課あてに「書留速達」にて郵送（必着）してください。

申請期間〔A日程〕 令和4年7月5日（火）～令和4年7月8日（金）

〔B日程〕 令和5年1月6日（金）～令和5年1月10日（火）

申請先 〒184-8501 東京都小金井市貫井北町4-1-1 東京学芸大学入試課

書類等の名称	摘 要
① 入学資格審査申請書	本学所定の用紙（注1） 取得免許状等諸資格については、証明書を添付すること。
② 成績証明書及び卒業（見込）証明書	高等学校卒業後の学歴に関するすべての証明書を提出すること。（注2）（出身学校の学校長、学長又は学部長が作成したもの）
③ 在職証明書（該当者のみ）	本学所定の用紙（注1・注2）
④ 教育研究歴・活動歴・学習歴申立書（該当者のみ）	教育研究歴、芸術・スポーツ・文化活動歴もしくは国際団体等での活動歴又は学習歴がある者は、本学所定の用紙（注1）へ記入の上提出すること。（また、それを証明できる書類を提出のこと）
⑤ 教育研究業績等一覧	本学所定の用紙（注1）に、教育研究業績、活動実績又は学習内容を記入の上、教育実践記録、口頭発表、研究論文、競技記録、発表記録、表彰等がある者は、その写しなど証明できるものを添付して提出すること。（業績等のない者もその旨を明記し、提出すること）
⑥ 返信用封筒	郵便番号・住所・氏名を明記し、344円分の切手を貼付した長3形封筒

この他に必要に応じて証明書等の提出を求める場合があります。提出された書類等は返還しません。入学資格の審査結果は、申請者に対し、A日程については8月上旬、B日程については1月末まで（予定）に文書により通知します。

（注1）本学所定の用紙は、本学ウェブサイト上の用紙をプリントアウトして申請してください。

《<https://www.u-gakugei.ac.jp/nyushi/shushi/post-5.html>》

（注2）証明書類は原本を提出してください。なお、中国の大学を卒業した者については、全国高等学校学生信息咨询与就業指導中心（CHSI）又は教育部学位与研究生教育发展中心（CDGDC）が発行する証明書でも可とします。



### 4. 標準修業年限

#### 2年

なお、現職教員（「現職教員選抜」又は「派遣教員選抜」の志願者）のうち「1年履修プログラム」による履修を認められた者は、1年で修了することができます。7頁の「5. 現職教員等に対する特例等」を参照してください。

また、一般選抜又は特別選抜の志願者のうち希望する者が7頁「6. 教員免許取得のための特別なコース」の受講を許可された場合の修業年限は3年となります。



### 「長期履修学生」制度について

学生が「職業を有している」等の事情により、教育学研究科の標準修業年限（2年）を超えて一定の期間（3年又は4年）にわたり計画的に教育課程を履修し修了することを希望する旨を申し出たときは、その計画的な履修を認めることができる制度（「長期履修学生」制度）があります。

この制度により長期履修学生が修了するまで、1年間に納める授業料の額は、標準修業年限（2年分）の授業料を、計画的に履修することを認められた一定の期間の年数（3年又は4年）で除した額となります。

なお、この制度は、在学途中で長期履修を申請することもできますが、その場合の授業料は標準修業年限分の授業料より高くなりますのでご注意ください。

申請方法等の詳細については、合格した方にあらためてお知らせします。

## 5. 現職教員等に対する特例等

### (1) 実務経験による実習単位の一部免除について

教育職員免許法による免許状の取得を必要とする学校種（幼稚園、小学校、中学校、義務教育学校、高等学校、中等教育学校及び特別支援学校）の教員として5年以上の勤務経験を有する者は<sup>(※1)</sup>、審査<sup>(※2)</sup>により実習（「教職専門実習」）10単位のうち8単位を免除します。

※1 5年以上の勤務経験とは、令和5年4月1日現在、通算して5年以上となる場合を指します。経験月数が1ヶ月未満の期間がある場合は、1ヶ月に切り上げて計算します。非常勤講師や任期付き雇用の期間、休職（休業）期間は、経験年月数に算入しません。

なお、一般選抜の志願者については、令和5年3月末時点で教職を離職後5年以内の場合に限ります。

※2 審査は、「実務の状況に関する申立書」と、入学者選抜試験の面接後に実施する面接により行います。この審査は、入学者選抜の可否には関係しません。

### (2) 1年履修プログラムの履修の可否について

「1年履修プログラム」とは、現職教員選抜又は派遣教員選抜の志願者を対象として、主として教育実践等の実務の経験について審査し、また、上記(1)の「実習8単位免除」が認められることによって1年間の在籍で修了できるプログラムです。

常勤の現職教員として5年以上の勤務経験（上記(1) ※1の経験年数の算出方法による）を有する者は、「1年履修プログラム」の履修を希望することができます。ただし、派遣教員選抜の場合、履修期間については教育委員会と出願前に十分確認してください。

履修の可否の審査は、上記(1)の審査と併せて行います。

## 6. 教員免許取得のための特別なコース

### (1) コースの種類

#### ① 小学校教員免許コース

教職に関する広い知識と、特定の教科・領域に関する専門性を有した小学校教員を養成するために、学士の学位を有し、中学校又は高等学校の教諭の普通免許状を有している方（現職教員を除く）を対象とした、小学校教諭一種免許状を取得することができるコースです。

このコースでは、1年次に本学教育学部の教員養成カリキュラムを履修し、小学校教諭一種免許状に必要な単位（教育実習を含む）をすべて修得し、2年次から教職大学院のカリキュラムを履修することになります。そのため、修業年限は3年となることに注意してください。

#### ② 特別支援学校教員免許コース

特別支援教育に関するニーズの高まりに対応するために、学士の学位を有し、小学校、中学校、高等学校又は幼稚園の教諭の普通免許状を有している方（現職教員を除く）を対象とした、特別

支援学校教諭免許状を取得することができるコースです。

このコースでは、1年次に本学特別支援教育特別専攻科のカリキュラムを履修し、特別支援学校教諭免許状に必要な単位（教育実習を含む）をすべて修得し、2年次から教職大学院のカリキュラムを履修することになります。そのため、修業年限は3年となることに注意してください。

## (2) コースの受講希望申請の方法

一般選抜又は特別選抜の志願者のうち、これらのコースの受講を希望する場合は、入学者選抜の出願時に入学願書の所定の欄にチェックを入れるとともに「⑩免許コース志願理由書」を提出する必要があります。なお、両方のコースを同時に希望することはできません。

受講の可否は、入学者選抜試験とは別に、教職への関心と意欲、適性等について審査した上で決定し、その結果は入学者選抜の合格発表の際に併せて通知します。

## (3) コースに関する注意事項

- ・教職大学院の入学者選抜が不合格の場合は、コースを受講することはできません。
- ・コースの受講が不許可であっても、教職大学院の入学者選抜の合格は取り消されません（この場合は、修業年限は2年となります）。
- ・コースを受講すると教職大学院を修了するのに3年かかるため、各自治体の教員採用試験における名簿登載期間の延長制度等が適用されない可能性があります。詳細は、各自治体にご確認ください。

## 7. 出願手続

### (1) 選抜に係る出願書類等

◎：全員要提出 ▲：摘要欄に該当する者のみ要提出

	書類等の名称	提出該当者				摘 要
		一 般	現 職	派 遣	特 別	
①	出願書類等提出明細票	◎	◎	◎	◎	本学所定の用紙
②	入学願書	◎	◎	◎	◎	本学所定の用紙
③	受験票・写真票	◎	◎	◎	◎	本学所定の用紙
④	入学検定料（30,000円） 入学検定料納入確認票 （上記金額を改定することがあります）	◎	◎	◎	◎	入学検定料を以下1，2いずれかにより払い込みの上、受領した用紙を入学検定料納入確認票（本学所定の用紙）の所定の欄に貼付すること 1. 銀行等窓口：「入学検定料納入済票（大学提出用）」 2. コンビニエンスストア：「収納証明書」 ※詳細は、「（2）入学検定料について」を参照
⑤	卒業（見込）証明書	◎	◎	◎	◎	・出身大学の学長又は学部長が発行したもの（注1，注3，注4，注7） ・複数の大学に在籍した場合は全て ※卒業証書は不可
⑥	成績証明書	◎	◎	◎	◎	・出身大学の学長又は学部長が発行したもの（注1，注3，注4，注7） ・複数の大学に在籍した場合は全て
⑦	教育職員免許状授与証明書 又は取得見込証明書	◎	◎		◎	・教育職員免許状授与証明書：都道府県等教育委員会発行 ・取得見込証明書：出身大学発行（注1） ※次の書類は不可：教育職員免許状の写し、有効期間更新証明書、更新講習修了確認証明書 （5頁に記載の出願要件を満たすことが確認できる普通免許状にかかる証明書を全て提出すること）
⑧	面接調査書	◎	◎	◎	◎	本学所定の用紙
⑨	課題研究計画書	◎	◎	◎	◎	本学所定の用紙
⑩	推薦書			◎		本学所定の用紙又は都道府県等教育委員会が作成したもの（注5）

⑪	教育実践研究履歴申告書 (報告書等を含む)		◎	◎	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 本学所定の用紙 (様式裏面の記入例を参照すること)</li> <li>・ 代表的な報告書等 (原本又はコピー等) 5点以内を提出すること。なお、提出された報告書等は返還しない</li> </ul>
⑫	在職 (期間) 証明書	▲	◎	▲	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 本学所定の用紙</li> <li>・ 次のいずれかに該当する者は、所属長発行のものを提出 (注1)</li> <li>1. 一般選抜 (在職のまま本学大学院に入学しようとする者) : 出願時現在の勤務先分のみ (注6)</li> <li>2. 現職教員選抜 : 現任校分のみ (注6)</li> <li>3. 一般選抜, 現職教員選抜, 派遣教員選抜志願者のうち、「5. 現職教員等に対する特例等 (1) 実務経験による実習単位の一部免除について」 (7頁参照) を希望する者 (注6)</li> </ul>
⑬	戸籍抄本等	▲	▲	▲	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 各証明書等と現在の姓が異なる者のみ提出</li> <li>・ 改姓の事実が確認できる公的機関発行の証明書を提出すること</li> </ul>
⑭	名票 (シール)	◎	◎	◎	本学所定の用紙
⑮	受験票送付用封筒	◎	◎	◎	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 本学所定の封筒</li> <li>・ 郵便番号・住所・氏名を明記の上、354円分の切手を貼付すること</li> </ul>
⑯	実務の状況に関する申立書	▲	▲	▲	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 本学所定の用紙</li> <li>・ 「5. 現職教員等に対する特例等」を希望する者</li> </ul>
⑰	免許コース志願理由書	▲		▲	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 本学所定の用紙</li> <li>・ 一般選抜又は特別選抜志願者のうち希望する者</li> </ul>
⑱	作品 (作曲)	▲	▲		これまで作曲、又は編曲した作品を提出すること (21頁参照)
⑲	ポートフォリオ 又は論文等	▲	▲		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 美術・工芸教育サブプログラム志願者のみ提出</li> <li>・ ポートフォリオのサイズは自由、一冊にまとめて提出</li> <li>・ 論文等研究物は著書又は実践研究報告書も可、様式は任意 (14頁参照)</li> </ul>
⑳	作品 (書道)	▲	▲		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 書道教育サブプログラム志願者のみ提出</li> <li>・ 書道作品5点を提出すること (14頁参照)</li> </ul>

(注1) 証明書類は原本を提出してください。ただし、出願時点において新型コロナウイルス感染拡大等のため、所属する (していた) 学校又は職場等が閉鎖している等、やむを得ない理由により証明書類の原本の提出が困難な場合に限り、「証明書類を申請済であり、かつ発行できないこと」を客観的に証明する資料 (大学の公式ウェブサイト等の該当ページを印刷したもの、メールのやりとり等) を同封することで出願書類を受理します。

(注2) 出願資格 (1) の②により出願する者は、学位授与証明書又は学位授与申請受理証明書を提出してください。

(注3) 4年間の大学教育を2つ以上の学校にまたがって終えた場合は、在籍した全ての学校について提出してください。

(注4) 中国の大学を卒業した者については、全国高等学校学生信息咨询与就業指導中心 (CHSI) 又は教育部学位与研究生教育发展中心 (CDGDC) が発行する証明書でも可とします。

(注5) 教育委員会が直接本学に郵送する場合がありますので、事前に教育委員会に確認してください。

(注6) 在職 (期間) 証明書について、「現職教員等に対する特例等」を希望する者は、5年分以上の証明書 (複数枚になる場合は本学所定の用紙をコピーして使用すること) を提出してください。

なお、国公立学校教員で、学校長が人事記録等により履歴を確認できる範囲において、在籍期間を集約して証明することは差支えありません。

(注7) 日本語又は英語以外の言語で作成された証明書には、日本語訳又は英語訳を必ず添付してください。

(注8) その他必要に応じて証明書等の提出を求める場合があります。

## (2) 入学検定料について

① 次のいずれかの方法で入学検定料を納入してください。

(ア) 銀行等（ゆうちょ銀行は不可）窓口で支払う場合

- ・ 本学所定の入学検定料振込用紙（入学検定料振込依頼書）により、入学検定料 30,000 円を指定の口座に振り込んでください。なお、振込手数料は自己負担となります。
- ・ 必ず銀行等（ゆうちょ銀行は不可）の窓口で振り込み、A T M（現金自動預払機）は利用しないでください。
- ・ 振り込み後、「入学検定料納入済票（大学提出用）」（銀行等の収納印の無いものは無効とする）を必ず入学検定料納入確認票の所定の欄に貼付してください。

(イ) コンビニエンスストアで支払う場合

- ・ セブン-イレブン、ローソン、ミニストップで入学検定料 30,000 円を支払うことができます。店内にある情報端末機を操作の上、必ずレジにてお支払いください。なお、振込手数料は自己負担となります。
- ・ コンビニエンスストアの店内にある A T M（現金自動預払機）は利用しないでください。
- ・ 振り込み後、コンビニエンスストアのレジから受け取る「収納証明書」を必ず入学検定料納入確認票の所定の欄に貼付してください。
- ・ 情報端末機の操作手順は、入学検定料納入確認票裏面の「入学検定料支払方法のご案内」を参照してください。

② 一旦納入した入学検定料は、次の場合を除き返還しません。

(ア) 出願書類が受理されなかった場合

(イ) 入学検定料を振り込んだが出願書類を提出しなかった場合

(ウ) 入学検定料を誤って二重に振り込んだ場合

※ 入学検定料の返還について

㊦ 上記(ア)に該当する場合

出願書類を返送する際に、入学検定料の返還請求手続き方法について同封するので、それにより返還請求手続きをしてください。

㊧ 上記(イ)又は(ウ)に該当する場合

速やかに本学経理課（TEL：042-329-7143）に連絡し、入学検定料の返還請求手続きをしてください。なお、連絡が無い場合や返還請求手続きが無い場合は、返還できないので注意してください。

※ 入学検定料の免除について

震災及び台風等（激甚災害指定）で被災した志願者に対して、入学検定料の免除措置を行います。詳しくは本学のウェブサイトをご覧ください。

《<https://www.u-gakugei.ac.jp/02nyushi/menjo.html>》



### (3) 出願方法等

#### ① 出願方法：郵送（書留速達）に限ります。

志願者は、出願書類を一括して、本学所定の願書提出用封筒に入れて、受験する日程（A日程又はB日程）に応じた出願期間中に「書留速達」で送ってください。

（注）1. ①に添付する報告書等は別便でもかまいません。別便とした封筒には、必ず氏名を記入の上、「教職大学院 教育実践研究履歴申告書」と明記して、「東京学芸大学入試課」あてに郵送してください。

2. ①は教育委員会から本学へ直接郵送してもかまいません。

3. 出願書類等に不備があり、連絡が取れない場合は出願書類を受理しません。

4. 出願書類受理後は、記載事項の変更を認めません。また、受理した出願書類等は返還しません。

5. 出願手続きに不正があった場合は、入学許可の後でもこれを取り消します。

#### ② 出願期間（入学願書受付期間）

〔A日程〕

令和4年8月30日（火）～ 令和4年9月5日（月）

（出願期間最終日の消印有効 ※書留速達に限る）

〔B日程〕

令和5年1月24日（火）～ 令和5年1月26日（木）

（出願期間最終日の消印有効 ※書留速達に限る）

### (4) 受験票等の発送

「受験票」及び「受験者心得」はA日程については9月27日（火）、B日程については2月3日（金）までに発送します。A日程については10月3日（月）までに、B日程については2月8日（水）までに届かない場合は、入試課（連絡先は表紙裏面）まで問い合わせてください。

## 8. 受験に際して配慮を必要とする者の事前相談

(1) 障がいがある等の理由で、受験上及び修学上配慮を必要とする者若しくは不安を感じる者は、出願に先立ち相談締切日までに事前相談申し出書（診断書等関係書類添付）を提出し、あらかじめ本学と相談の上出願してください。（なお、内容によっては対応に時間を要する場合もあるので、可能な限り早期に申し出てください）

(2) 障がい等のある志願者が、選抜の際に不利に扱われることはありません。

(3) 事前相談申し出書には次の内容を記載してください。（様式は問いません）

- ① 志望するプログラム・サブプログラム名
- ② 障がい等の種類・程度
- ③ 受験上及び修学上配慮を必要とする事項
- ④ 大学等でとられていた特別措置
- ⑤ 日常生活の状況
- ⑥ その他参考となる事項

(4) 相談締切日（A日程）令和4年7月8日（金）

（B日程）令和5年1月10日（火）

(5) 問い合わせ先 東京学芸大学学務部入試課

〒184-8501 東京都小金井市貫井北町4-1-1

電話 042-329-7203（平日9時～12時、13時～17時）

## 9. 選抜方法等（選抜基準）

### （1）選抜方法

「学力検査」（小論文及び専門科目）、「面接」、「出願書類」により総合して行います。  
ただし、選抜区分によっては、小論文、専門科目を課さず、面接・出願書類により行います。  
なお、専門科目には実技が含まれることがあります。

### （2）合否判定基準

大学院教育学研究科では、受験科目の成績が1科目（科目によっては、構成する種類の1種類）でも本研究科の定めた得点基準に達していない場合は、総合点の如何にかかわらず不合格とします。

### （3）配点

小論文 100点 専門科目 100点 面接・出願書類 100点

### （4）学力検査等の日程及び内容等

#### ① 学力検査等の日程及び内容

##### 〔A日程〕

試験期日	試験時間	試験科目	対象となる選抜区分
令和4年 10月22日（土）	9：00～10：00	小論文	一般選抜・現職教員選抜
	10：30～12：00	専門科目 (プログラム・サブプログラムによつては実技を含む)	
	13：30～	面接	全区分
令和4年 10月23日（日）	9：00～ (詳細は前日に掲示します)	面接	*予備日

※実技については、面接終了後に行う場合があります。

##### 〔B日程〕

試験期日	試験時間	試験科目	対象となる選抜区分
令和5年 2月18日（土）	10：00～	面接	派遣教員選抜

② 現職教員選抜、派遣教員選抜の受験者、一般選抜の該当者には、面接終了後、引き続き、「実務経験によって実習8単位を修得したものとみなすことができるか」を判断するための面接を行います。

### （5）学力検査等会場 東京学芸大学（東京都小金井市貫井北町 4-1-1）

J R 中央線 「武蔵小金井駅」下車（北口）

- ・京王バス「小平団地」行き又は「国分寺駅北口」行き乗車、「学芸大正門」下車
- ・徒歩約25分

J R 中央線・西武線 「国分寺駅」下車（北口）

- ・京王バス「武蔵小金井駅北口」行き乗車、「学芸大正門」下車
- ・徒歩約20分

※ 各プログラム・サブプログラムの試験室等は、試験前日午前10時に東京学芸大学ウェブサイト上に掲示します。ただし、大学構内には入れません。

※ 試験当日は、正門のみ開門します。

○学力検査等の内容及び時間（一般選抜・現職教員選抜） 1/4

試験期日		10月22日（土）			10月23日（日）
プログラム等	試験科目・時間 選抜区分	小論文 9:00～10:00	専門科目 10:30～12:00	面接 13:30～	面接 [予備日]
学校組織マネジメント プログラム	一般選抜				
	現職教員選抜		○論述（学校マネジメント，教育政策の動向，学校危機管理，人材育成等に関する論述）	全員が受験する	
総合教育実践 プログラム	一般選抜		○論述（授業設計・カリキュラム・学級経営・道德教育等学校教育全般的内容に関する論述）	全員が受験する	
	現職教員選抜		○論述（授業設計・カリキュラム・学級経営・道德教育等学校教育全般的内容に関する論述）	全員が受験する	
国語教育 サブプログラム	一般選抜		○国語科教育 小学校，中学校，高等学校の国語科のカリキュラムと教育内容及びその指導・評価等に関する問題	全員が受験する	
	現職教員選抜		○国語科教育 小学校，中学校，高等学校の国語科のカリキュラムと教育内容及びその指導・評価等に関する問題	全員が受験する	
教科領域指導プログラム	一般選抜	専攻共通小論文	○共通問題 小学校・中学校の社会科，高等学校の地理歴史科・公民科の授業・単元・カリキュラムや評価等に関する共通問題（社会科教育）	全員が受験する	
	現職教員選抜		○小学校社会科 ○中学校社会科 ○高等学校地理総合 ○高等学校歴史総合 ○高等学校公共		
一般選抜	○共通問題 小学校・中学校の社会科，高等学校の地理歴史科・公民科の授業・単元・カリキュラムや評価等に関する共通問題（社会科教育）		全員が受験する		
現職教員選抜	○小学校社会科 ○中学校社会科 ○高等学校地理総合 ○高等学校歴史総合 ○高等学校公共				選択問題 左記の教育内容及びその指導に関する問題から 1題を選択
数学教育 サブプログラム	一般選抜		○数学教育・数学 小学校算数科，中学校・高等学校数学科のカリキュラムや学習指導，評価等に関する問題，及び，上記教科の内容や教材に関わる問題	全員が受験する	
	現職教員選抜		○数学教育・数学 小学校算数科，中学校・高等学校数学科のカリキュラムや学習指導，評価等に関する問題，及び，上記教科の内容や教材に関わる問題	全員が受験する	

○学力検査等の内容及び時間（一般選抜・現職教員選抜） 2/4

試験期日		10月22日（土）			10月23日（日）		
プログラム等	試験科目・時間 選抜区分	小論文	専門科目	面接	面接		
		9:00～10:00	10:30～12:00	13:30～	[予備日]		
教科領域指導プログラム	理科教育サブプログラム	一般選抜	専攻共通小論文	○理科教育 ○物理教育・物理学 ○化学教育・化学 ○生物教育・生物学 ○地学教育・地学	選択問題 左記から1題を選択	全員が受験する	
		現職教員選抜		○理科教育 ○物理教育・物理学 ○化学教育・化学 ○生物教育・生物学 ○地学教育・地学	選択問題 左記から1題を選択	全員が受験する	
	音楽教育サブプログラム	一般選抜		※詳細は21頁参照			
		現職教員選抜					
	美術・工芸教育サブプログラム	一般選抜		○英語（辞書を使用してよい）※電子辞書不可 ○美術科教育に関する論述 ○ポートフォリオ 作品，研究活動記録又は論文などの研究物による 審査（事前提出） ※ サイズは自由，一冊にまとめて提出。論文は，著書又は 実践研究報告書も可，書式は任意。	全員が受験する		
		現職教員選抜		○英語（辞書を使用してよい）※電子辞書不可 ○美術科教育に関する論述 ○ポートフォリオ 作品，研究活動記録又は論文などの研究物による 審査（事前提出） ※ サイズは自由，一冊にまとめて提出。論文は，著書又は 実践研究報告書も可，書式は任意。	全員が受験する		
	書道教育サブプログラム	一般選抜		○書道科教育（国語科「書写」を含む）についての論 述 ○作品 以下の書道作品5点を提出すること ・漢字仮名交じりの書（創作） ・漢字の書（臨書及び創作） ・仮名の書（臨書及び創作） ※ 作品に第三者による制作証明書を添付すること。 未表装も可。	全員が受験する		
		現職教員選抜		○書道科教育（国語科「書写」を含む）についての論 述 ○作品 以下の書道作品5点を提出すること ・漢字仮名交じりの書（創作） ・漢字の書（臨書及び創作） ・仮名の書（臨書及び創作） ※ 作品に第三者による制作証明書を添付すること。 未表装も可。	全員が受験する		



○学力検査等の内容及び時間（一般選抜・現職教員選抜） 3/4

試験期日		10月22日（土）			10月23日（日）	
プログラム等	試験科目・時間 選抜区分	小論文	専門科目	面接	面接	
		9:00～10:00	10:30～12:00	13:30～	[予備日]	
教科領域指導プログラム	保健体育教育サブプログラム	一般選抜	専攻共通小論文	○共通問題（保健体育教育） ○体育科教育 ○体育学 ○運動学 ○健康教育	選択問題 左記から1題を選択	全員が受験する
		現職教員選抜		○共通問題（保健体育教育） ○体育科教育 ○体育学 ○運動学 ○健康教育	選択問題 左記から1題を選択	全員が受験する
	技術教育サブプログラム	一般選抜		○技術教育	全員が受験する	
		現職教員選抜		○技術教育	全員が受験する	
	家庭科教育サブプログラム	一般選抜		○共通問題 小・中・高の家庭科教育に関する問題 ○家庭科教育 ○衣 ○食 ○住 ○保育 ○家庭経営	選択問題 左記から1題を選択	全員が受験する
		現職教員選抜		○共通問題 小・中・高の家庭科教育に関する問題 ○家庭科教育 ○衣 ○食 ○住 ○保育 ○家庭経営	選択問題 左記から1題を選択	全員が受験する
	英語教育サブプログラム	一般選抜		○英語科教育	全員が受験する	
		現職教員選抜		○英語科教育	全員が受験する	
	情報教育サブプログラム	一般選抜		○情報教育 情報科教育法（小中における情報活用能力育成を含む）に関連する内容 情報通信技術を活用した教育の理論及び方法（教育の方法及び技術（情報機器及び教材の活用を含む））に関連する内容	全員が受験する	
		現職教員選抜		○情報教育 情報科教育法（小中における情報活用能力育成を含む）に関連する内容 情報通信技術を活用した教育の理論及び方法（教育の方法及び技術（情報機器及び教材の活用を含む））に関連する内容	全員が受験する	

○学力検査等の内容及び時間（一般選抜・現職教員選抜） 4/4

試験期日		10月22日（土）			10月23日（日）	
プログラム等	試験科目・時間 選抜区分	小論文	専門科目	面接	面接	
		9:00～10:00	10:30～12:00	13:30～	[予備日]	
教科領域指導プログラム	幼児教育サブプログラム	一般選抜	専攻共通小論文	○幼児教育	全員が受験する	
	現職教員選抜	○幼児教育		全員が受験する		
	養護教育サブプログラム	一般選抜		○養護教育・学校保健	全員が受験する	
	現職教員選抜	○養護教育・学校保健		全員が受験する		
プログラム	特別支援教育高度化	一般選抜		○特別支援教育	全員が受験する	
	現職教員選抜	○特別支援教育		全員が受験する		
教育プロジェクトプログラム	学校教育課題サブプログラム	一般選抜		○論述（生徒指導・進路指導・キャリア教育，教育相談，特別活動・総合的な学習の時間，教育と社会に関する論述）	全員が受験する	
	現職教員選抜	○論述（生徒指導・進路指導・キャリア教育，教育相談，特別活動・総合的な学習の時間，教育と社会に関する論述）		全員が受験する		
	国際理解・多文化共生教育サブプログラム	一般選抜	○国際理解・多文化共生教育	全員が受験する		
	現職教員選抜	○国際理解・多文化共生教育	全員が受験する			
	環境教育サブプログラム	一般選抜	○環境教育	全員が受験する		
	現職教員選抜	○環境教育	全員が受験する			

○学力検査等の内容及び時間（派遣教員選抜・特別選抜） 1/4

試験期日		10月22日（土）			10月23日（日）	
プログラム等	試験科目・時間 選抜区分	小論文 9:00～10:00	専門科目 10:30～12:00	面接 13:30～	面接 [予備日]	
学校組織マネジメント プログラム	派遣教員選抜			全員が受験する		
	特別選抜					
総合教育実践 プログラム	派遣教員選抜			全員が受験する		
	特別選抜			全員が受験する		
教科領域指導プログラム	国語教育サブプログラム	派遣教員選抜		全員が受験する		
		特別選抜		全員が受験する		
	社会科教育サブプログラム	派遣教員選抜			全員が受験する	
		特別選抜			全員が受験する	
	数学教育サブプログラム	派遣教員選抜			全員が受験する	
		特別選抜			全員が受験する	
理科教育サブプログラム	派遣教員選抜			全員が受験する		
	特別選抜			全員が受験する		

○学力検査等の内容及び時間（派遣教員選抜・特別選抜） 2/4

試験期日		10月22日（土）			10月23日（日）	
プログラム等	試験科目・時間 選抜区分	小論文 9:00～10:00	専門科目 10:30～12:00	面接 13:30～	面接 [予備日]	
	教科領域指導プログラム	音楽教育サブプログラム	派遣教員選抜			全員が受験する
特別選抜					全員が受験する	
美術・工芸教育サブプログラム		派遣教員選抜			全員が受験する	
		特別選抜			全員が受験する	
書道教育サブプログラム		派遣教員選抜			全員が受験する	
		特別選抜			全員が受験する	
保健体育教育サブプログラム		派遣教員選抜			全員が受験する	
		特別選抜			全員が受験する	
技術教育サブプログラム		派遣教員選抜			全員が受験する	
		特別選抜			全員が受験する	

○学力検査等の内容及び時間（派遣教員選抜・特別選抜） 3/4

試験期日		10月22日（土）			10月23日（日）	
プログラム等	試験科目・時間 選抜区分	小論文 9:00～10:00	専門科目 10:30～12:00	面接 13:30～	面接 [予備日]	
	教科領域指導プログラム	家庭科教育サブプログラム	派遣教員選抜			全員が受験する
特別選抜					全員が受験する	
英語教育サブプログラム		派遣教員選抜			全員が受験する	
		特別選抜			全員が受験する	
情報教育サブプログラム		派遣教員選抜			全員が受験する	
		特別選抜			全員が受験する	
幼児教育サブプログラム		派遣教員選抜			全員が受験する	
		特別選抜			全員が受験する	
養護教育サブプログラム		派遣教員選抜			全員が受験する	
		特別選抜			全員が受験する	
特別支援教育高度化プログラム		派遣教員選抜			全員が受験する	
		特別選抜			全員が受験する	

○学力検査等の内容及び時間（派遣教員選抜・特別選抜） 4/4

試験期日		10月22日（土）			10月23日（日）	
プログラム等	試験科目・時間 選抜区分	小論文	専門科目	面接	面接	
		9:00～10:00	10:30～12:00	13:30～	[予備日]	
教育プロジェクトプログラム	サブプログラム 学校教育課題	派遣教員選抜			全員が受験する	
		特別選抜			全員が受験する	
	サブプログラム 国際理解・多文化共生教育	派遣教員選抜			全員が受験する	
		特別選抜			全員が受験する	
	サブプログラム 環境教育	派遣教員選抜			全員が受験する	
		特別選抜			全員が受験する	

○音楽教育サブプログラムの学力検査等の内容及び時間（一般選抜・現職教員選抜）

試験科目 ・時間 選択課題の 内容	専門科目 10:30～11:30	専門科目（選択課題，弾き歌い） 面接（時間は当日に指示する） 13:30～	
(ア) 声楽 (イ) ピアノ (ウ) 管弦打	筆記試験 （音楽科教育に関する 基礎的・基本的事項 についての筆記試験）	実技試験	面接，弾き歌い
(エ) 作曲		作品についての試問	面接，弾き歌い
(オ) 音楽学 (カ) 音楽科教育学		論述試験	面接，弾き歌い

音楽教育サブプログラムを志望し，一般選抜又は現職教員選抜を希望する者の専門科目は，次の（1）から（3）の全てを受験。

（1）筆記試験：音楽科教育に関する基礎的・基本的事項についての筆記試験（60分）

（2）選択課題：次の（ア）から（カ）の中から1つを選択

（ア）声 楽：バロックから現代までのいわゆるクラシックジャンルとして認められる歌曲，オペラ，宗教曲から任意の1曲を原語により暗譜で歌う。オペラ，宗教曲は原調で歌うこと。ただし，通常歌われている調に関してはこの限りではない。伴奏はピアノのみとし，伴奏者を同伴すること。

（イ）ピ ア ノ：J. S. Bach：シンフォニア（3声インヴェンション）より任意の1曲を暗譜で演奏する。

（ウ）管弦打楽器：次の楽器から1つを選択し，任意の1曲を演奏する。入学願書や受験票・写真票の学力検査科目等記入箇所には選択した楽器名を記入すること。  
リコーダー，フルート，オーボエ，クラリネット，サクソフォン，  
ファゴット，ホルン，トランペット，トロンボーン，ユーフォニアム，  
チューバ，ヴァイオリン，ヴィオラ，チェロ，コントラバス，マリンバ  
伴奏を必要とする場合は，伴奏者を同伴することができる。暗譜の必要はない。

（エ）作 曲：これまでに作曲した作品，又は編曲した作品を出願時に提出する。  
編成，曲数は自由。また，その作品についての試問を行う。

（オ）音 楽 学：音楽史に関する論述試験（60分）

（カ）音楽科教育学：論述試験（60分）

（3）弾き歌い：小学校学習指導要領（平成29年告示）第2章第6節音楽の第5，6学年で示されている共通教材および中学校学習指導要領（平成29年告示）第2章第5節音楽で示されている共通教材より，計3曲を選択し，当日指定された1曲を弾き歌いする（主旋律を歌うこと）。暗譜の必要はないが，楽譜を用いる場合は持参すること。楽譜および調は受験生の自由とする。

## 10. 合格者の発表

〔A日程〕 令和4年11月4日（金） 午前10時

〔B日程〕 令和5年3月2日（木） 午前10時

本学ウェブサイト上で合格者受験番号一覧を7日間掲載するとともに、合格者には合格通知書等を郵便で発表当日に発送します。

なお、電話等による問い合わせには一切応じません。

教育学研究科入試情報

《<https://www.u-gakugei.ac.jp/nyushi/shushi/index.html>》



## 11. 欠員補充第2次募集

入学定員に不足が生じた場合は、欠員補充のための第2次募集を実施することがあります。

欠員補充第2次募集を実施する場合は、本学ウェブサイト等に掲載します。

《<https://www.u-gakugei.ac.jp>》



## 12. 入学手続

所定の諸経費を納入し、〔A日程合格者〕は入学手続日に直接来学、又は郵送で必要書類を提出すること。詳細は、「受験票」に同封する「受験者心得」を確認すること。〔B日程合格者〕は郵送により必要書類を提出すること。

なお、期間内に入学手続きを完了しない者は、入学を辞退したものと取り扱います。

### 〔A日程合格者〕

(1) 入学手続日… 令和4年11月22日（火）

郵送による場合は「書留郵便」とし、令和4年11月22日（火）必着とする。

（宛先は表紙裏面参照）

(2) 受付時間… 9時30分～11時30分、13時30分～15時30分

(3) 場 所… 東京学芸大学（場所の詳細は合格通知書に同封する。）

### 〔B日程合格者〕

(1) 入学手続は郵送による受付のみとする。「書留郵便」により、令和5年3月13日（月）必着とする。

## 13. 諸経費

(1) 入学料 282,000円

(2) 授業料 267,900円（春学期分）

535,800円（年額）

(注) ① 入学料及び授業料は、改定することがあります。

② 一旦納入した入学料は返還しません。

③ 春学期分の授業料について、上記入学手続期間に納入しない場合は、令和5年4月1日から4月28日までの間に納入してください。

④ 授業料の納入については、希望により春学期分の納入の際に秋学期分も合わせて納入することができます。

⑤ 在学中に授業料改定が行われた場合には、改定時から新授業料が適用されます。

⑥ 授業料については、入学手続きを行った者が令和5年3月31日までに入学を辞退した場合には、納入した者の申し出により、当該授業料相当額を返還します。



## 14. 留意事項

- (1) 受験のための宿泊施設のあっせんは行いません。
- (2) この募集要項に記載されていることについて変更が生じたときは、本学ウェブサイト上で周知するとともに、必要に応じて出願者に通知等を行うことがありますので留意してください。
- (3) 試験当日に最寄りの駅から試験場周辺にかけて、勧誘や販売等をしている者がいることがありますが、それらの行為は、東京学芸大学とは全く関係ないので十分注意してください。不当な料金を請求される等のトラブルに巻き込まれても本学は一切責任を負いません。

## 15. 入学試験情報

### (1) 過去の入学試験問題・解答例

過去5年間のうち志願者のあったプログラム・サブプログラムの入学試験問題・解答例は、東京学芸大学図書館にて閲覧できます。また、直近の3年分をサイバーカレッジ（大学過去問題専門サイト）から閲覧・ダウンロードできます。

ただし、前年度の入学試験問題・解答例については5月下旬ごろからの公表となります。

なお、新型コロナウイルス感染症対策のため、本学図書館における過去の入学試験問題・解答例の閲覧にあたっては、事前予約を必要とする場合があります。詳細は、本学図書館ウェブサイトを確認してください。

本学図書館

《<https://library.u-gakugei.ac.jp/>》



サイバーカレッジ

《<http://www.cybercollege.jp/u-gakugei-gs/index.php>》



### (2) 令和5年度入学者選抜試験の不合格者に対して、本人の請求に基づき各受験科目（科目を構成する種類ごとの得点を除く）の得点を開示します。

#### ① 請求期間・方法

令和5年3月1日（水）～3月30日（木）

郵送（令和5年3月30日の消印有効）

#### ② 必要書類

ア．開示請求書

イ．受験票（本人確認のため）

本学所定の用紙（ウェブサイト上の用紙をプリントアウトして使用）

《<https://www.u-gakugei.ac.jp/nyushi/shushi/-2.html>》

掲載開始：令和5年2月中旬 掲載予定

※ 本学のウェブサイトから入手が困難な場合は、本学入試課で直接又は郵送により配付します。郵送を希望する場合は、宛名を明記し84円分の切手を貼った返信用封筒（定形封筒）に同封して申し込んでください。その際、大学あての封筒の表に「教育学研究科入学試験成績開示請求書用紙請求」と朱書きしてください。



## 16. 個人情報の取扱いについて

個人情報については、「独立行政法人等の保有する個人情報の保護に関する法律」及び「国立大学法人東京学芸大学の保有する個人情報の保護に関する規程」に基づいて取り扱います。

本学に提出する出願書類等に記載された個人情報は、入学者選抜及び合格通知並びに入学手続きを行うために利用します。また、個人情報は入学後の教務関係（学籍、修学指導等）、学生支援関係（奨学金申請等）及び授業料等に関する業務を行う目的をもって本学が管理します。他の目的での利用及び本学の関係教職員以外への提供は行いません。

## 17. 願書記入上の注意

入学願書学力検査科目等・名票記入例（一般選抜・現職教員選抜）

※派遣教員選抜・特別選抜志願者は記入しないこと。

①

志望するプログラム・サブプログラム	学校組織マネジメント			プログラム サブプログラム
学力検査科目等 ※一般選抜・現職教員選抜のみ ※面接を除く受験科目（実技を含む）全てを記入すること。	小論文	専門科目		
	小論文	論述		

②

志望するプログラム・サブプログラム	総合教育実践			プログラム サブプログラム
学力検査科目等 ※一般選抜・現職教員選抜のみ ※面接を除く受験科目（実技を含む）全てを記入すること。	小論文	専門科目		
	小論文	論述		

③

志望するプログラム・サブプログラム	教科領域指導 国語教育			プログラム サブプログラム
学力検査科目等 ※一般選抜・現職教員選抜のみ ※面接を除く受験科目（実技を含む）全てを記入すること。	小論文	専門科目		
	小論文	国語科教育		

④

志望するプログラム・サブプログラム	教科領域指導 社会科教育			プログラム サブプログラム
学力検査科目等 ※一般選抜・現職教員選抜のみ ※面接を除く受験科目（実技を含む）全てを記入すること。	小論文	専門科目		
	小論文	共通問題	高等学校 歴史総合※	

※専門科目の選択問題は選択する科目を記入すること。

⑤

志望するプログラム・サブプログラム	教科領域指導 数学教育			プログラム サブプログラム
学力検査科目等 ※一般選抜・現職教員選抜のみ ※面接を除く受験科目（実技を含む）全てを記入すること。	小論文	専門科目		
	小論文	数学教育 ・数学		

⑥

志望するプログラム・サブプログラム	教科領域指導 理科教育			プログラム サブプログラム
学力検査科目等 ※一般選抜・現職教員選抜のみ ※面接を除く受験科目(実技を含む)全てを記入すること。	小論文	専門科目		
	小論文	地学教育※ ・地学		

※専門科目は選択する科目を記入すること。

⑦

志望するプログラム・サブプログラム	教科領域指導 音楽教育			プログラム サブプログラム
学力検査科目等 ※一般選抜・現職教員選抜のみ ※面接を除く受験科目(実技を含む)全てを記入すること。	小論文	専門科目		
	小論文	筆記試験	※ (ウ)管弦打楽器 (オーボエ)	弾き歌い

※専門科目の選択問題は選択する科目を記入すること。「(ウ)管弦打楽器」は楽器も記入すること。

⑧

志望するプログラム・サブプログラム	教科領域指導 美術・工芸教育			プログラム サブプログラム
学力検査科目等 ※一般選抜・現職教員選抜のみ ※面接を除く受験科目(実技を含む)全てを記入すること。	小論文	専門科目		
	小論文	英語	論述	ポートフォリオ

⑨

志望するプログラム・サブプログラム	教科領域指導 書道教育			プログラム サブプログラム
学力検査科目等 ※一般選抜・現職教員選抜のみ ※面接を除く受験科目(実技を含む)全てを記入すること。	小論文	専門科目		
	小論文	書道科教育についての論述	作品	

⑩

志望するプログラム・サブプログラム	教科領域指導 保健体育教育			プログラム サブプログラム
学力検査科目等 ※一般選抜・現職教員選抜のみ ※面接を除く受験科目(実技を含む)全てを記入すること。	小論文	専門科目		
	小論文	共通問題	健康教育※	

※専門科目の選択問題は選択する科目を記入すること。

⑪

志望するプログラム・サブプログラム	教科領域指導 技術教育			プログラム サブプログラム
学力検査科目等 ※一般選抜・現職教員選抜のみ ※面接を除く受験科目(実技を含む)全てを記入すること。	小論文	専門科目		
	小論文	技術教育		

⑫

志望するプログラム・サブプログラム	教科領域指導 家庭科教育			プログラム サブプログラム
学力検査科目等 ※一般選抜・現職教員選抜のみ ※面接を除く受験科目(実技を含む)全てを記入すること。	小論文	専門科目		
	小論文	共通問題	住 ※	

※専門科目の選択問題は選択する科目を記入すること。

⑬

志望するプログラム・サブプログラム	教科領域指導 英語教育			プログラム サブプログラム
学力検査科目等 ※一般選抜・現職教員選抜のみ ※面接を除く受験科目(実技を含む)全てを記入すること。	小論文	専門科目		
	小論文	英語科教育		

⑭

志望するプログラム・サブプログラム	教科領域指導 情報教育			プログラム サブプログラム
学力検査科目等 ※一般選抜・現職教員選抜のみ ※面接を除く受験科目(実技を含む)全てを記入すること。	小論文	専門科目		
	小論文	情報教育		

⑮

志望するプログラム・サブプログラム	教科領域指導 幼児教育			プログラム サブプログラム
学力検査科目等 ※一般選抜・現職教員選抜のみ ※面接を除く受験科目(実技を含む)全てを記入すること。	小論文	専門科目		
	小論文	幼児教育		

⑩

志望するプログラム・サブプログラム	<b>教科領域指導 養護教育</b>			プログラム サブプログラム
学力検査科目等 ※一般選抜・現職教員選抜のみ ※面接を除く受験科目(実技を含む)全てを記入すること。	小論文	専門科目		
	小論文	養護教育・ 学校保健		

⑪

志望するプログラム・サブプログラム	<b>特別支援教育高度化</b>			プログラム サブプログラム
学力検査科目等 ※一般選抜・現職教員選抜のみ ※面接を除く受験科目(実技を含む)全てを記入すること。	小論文	専門科目		
	小論文	特別支援教育		

⑫

志望するプログラム・サブプログラム	<b>教育プロジェクト 学校教育課題</b>			プログラム サブプログラム
学力検査科目等 ※一般選抜・現職教員選抜のみ ※面接を除く受験科目(実技を含む)全てを記入すること。	小論文	専門科目		
	小論文	論述		

⑬

志望するプログラム・サブプログラム	<b>教育プロジェクト 国際理解・多文化共生教育</b>			プログラム サブプログラム
学力検査科目等 ※一般選抜・現職教員選抜のみ ※面接を除く受験科目(実技を含む)全てを記入すること。	小論文	専門科目		
	小論文	国際理解・ 多文化共生教育		

⑭

志望するプログラム・サブプログラム	<b>教育プロジェクト 環境教育</b>			プログラム サブプログラム
学力検査科目等 ※一般選抜・現職教員選抜のみ ※面接を除く受験科目(実技を含む)全てを記入すること。	小論文	専門科目		
	小論文	環境教育		

## ○入学料及び授業料免除制度

経済的理由により入学料又は授業料の納付が困難であり、かつ、学業優秀と認められる者には、申請により選考の上、納付すべき入学料又は授業料が免除される制度があります。

手続き等の詳細は、本学のウェブサイト（下記URL）又は入学手続案内に同封する「入学料及び授業料免除等について」をご覧ください。

東京学芸大学ウェブサイト  
学生生活について>入学料・授業料の免除・徴収猶予制度  
《<https://www.u-gakugei.ac.jp/05gakusei/>》



※ウェブサイトから申請用紙等の入手が困難な場合は、以下連絡先にお問い合わせください。

連絡先 東京学芸大学 学務部 学生課 学生生活係（電話：042-329-7186）

## ○日本学生支援機構奨学金の予約採用制度

（詳細）日本学生支援機構ウェブサイト

《<https://www.jasso.go.jp/shogakukin/moshikomi/yoyaku/index.html>》



早くから入学後の経済計画や研究計画が立てられるように『予約採用』申請することを強くお勧めします。『予約採用』は出願・入学よりも前に申請することになりますので、本学大学院教育学研究科へ出願・入学する意思があれば申請可能です。※なお、入学直後の4月に申請する『在学採用』制度もあります。

	申請時期	初回振込時期
予約採用	書類配布：令和4年9月初旬～ 申 込：令和4年10月中旬 結果通知：令和5年1月下旬	令和5年4月中旬又は5月中旬 ※進学届提出時期によって分かれます。

予約採用の申し込みを希望する場合は、本学のウェブサイト（下記URL）から専用サイト（新年度分は9月初旬掲載予定）にアクセスし、手続方法に従って申請してください。なお、外国人留学生は対象になりません。

東京学芸大学ウェブサイト  
学生生活について>奨学金制度  
《<https://www.u-gakugei.ac.jp/scholarship/>》



## ○本学へのアクセス・構内キャンパスマップ

本学のウェブサイト（下記URL）にて確認してください。

《<https://www.u-gakugei.ac.jp/access/>》

